

木々の芽吹きが始まり、少しずつ春の足音が感じられる今日の佳き日、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、令和五年度 島根県立江津高等学校 第六十四回卒業証書授与式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

さて、ただいま卒業証書を授与されました五十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えられました。

日本語で「卒業」といえば学業の終了を指します。英語で卒業式は一般的には「graduation ceremony」と言いますが、「commencement」という言い方もあります。この単語は物事の「開始」「始まり」という意味です。つまり、卒業は終わりではなく、これまで学んだことを糧に、これからの自らの人生をスタートさせるという意味です。高校までの学びの多くは、教科書や参考書があり、基本的に正解がありますが、これからみなさんが一步を踏み出していく世界では、答えは一つとは限りません。そもそも正解がないかもしれません。知識やスキルも必要ですが、さらに自らが問いをつくり自らが問いを解く力が求められます。互いに納得できる最適解を導き出すために多様な他者と協働する力が求められます。まさに、江津高校のグランドデザインで示している「4つのC」すなわち「Challenge（挑戦）」、「Collaboration（協働）」、「Critical Thinking（批判的思考）」、「Communication（対話）」の四つの力が必要です。

新たなステージへ飛び立とうとしているみなさんには、さらに二つの力を身につけて欲しいです。それは二つの「そうぞうりょく」です。一つ目は、物事を心の中に思い浮かべる「想像力」(imagination)です。二つ目は、物事を新たに創り上げていく、クリエイトする「創造力」(creativity)です。先入観や思い込みが強いと一方向の偏った見方・考え方しかできなくなり、ましてや他人の意見に耳を傾けることなどしなくなります。視点を変えながら物事を客観的に観察し、時に応じて柔軟に考えを改めていく。自分の判断はこれで間違いないのか、自分の進むべき道はこれでいいのか、自分の言動が相手にどう捉えられるだろうか、自分の言動で傷つく人はいないだろうか、想像力を働かせてみましょう。「学び」とは「真似る」ことから始まります。この世界には真似るに値する人や物がたくさんあります。まずは真似をして、もうこれ以上真似ができないところまで行って、自分自身の独自性・創造性が発揮されます。これからみなさんが生きていくのは、「VUCA（ブーカ）の時代」と呼ばれる予測不可能、先行き不透明な時代です。だからこそ江津高校での学びを通して培った「4つのC」と「2つのそうぞうりょく（想像力・創造力）」が求められるのです。

最後になりましたが、今日までお子様を見守ってこられたご家族の皆様におかれましては、感慨も一入のことと存じます。心よりお祝い申し上げます。江津高校での三年間の高校生活を経て、お子様は心身ともにたくましく、大きく成長されました。どうかお子様の輝ける前途を温かく見守り、これからも支えていただきますようお願いいたしますとともに、いい意味で子離れ親離れをしてください。また、皆様方にはこの三年間、本校の教育活動推進のために、温かいご支援と多大なるご協力を賜りましたこと、高いところからではございますが、この場をお借りし、教職員を代表して心から厚くお礼を申し上げます。

結びにあたり、卒業生の皆さんの前途を祝福するとともに、今後の活躍を祈念申し上げ、式辞といたします。